

7. 計画の実現に向けて

計画を実現していくにあたり、行政と協働しながら、あるいは住民自らの自主的な取り組みとして、私たちが行っていくべきことを話し合い、整理しました。

◆行政との協働による取り組み

①検討会での検討成果を市民・関係者へ周知し、まちづくりへの関心を高める。

今回の提案は、意見・アイデア募集や情報提供を随時行いながらすすめてきたとはいえ、まだ検討会での提案にとどまっています。まちには多くの人々が住み、働いており、そこには個々の生活があります。今後、さらに広く市民や関係者、行政と議論を交わし、合意を図りながら、基本計画に高めていく必要があります。

そこで、まず今回の検討成果をできるだけ多くの人に周知し、関心を高めいただくため、提言の発表会を行ったり、様々な媒体を通じた報告などのPR活動を行っていきたいと考えます。

②今後、地域側のまちづくりの受け皿とするための地元組織を継承する。

提言を行ってそれで終わりというのではなく、自分たちのまちづくりとして、今後の計画づくりや事業の展開に積極的に関わり、継続的に見守っていくことが必要であると考えます。

そこで、現協議会を発展的解消した新たな組織づくりを行い、地域側のまちづくりの受け皿となるよう努めていききたいと思います。

③多くの住民が納得できる「まちづくりルール」を定める。

まちには多くの人々が住み、働いているため、美しく魅力ある香川のまちを孫・子の代まで維持していくためには、公共空間の整備だけでなく、民有地空間に対する何らかの「まちづくりルール」が必要であると考えます。

例えば、防災上危険なブロック塀の生垣化や、カラスに荒らされないためのゴミ出しの方法など、多くの住民が納得できるルールづくりが行っていきたいと思います。

◆住民の自主的な取り組み

①住民1人1人がまちづくり活動に参加する。

全てを行政に頼るのではなく、自分たちでできることは自分たちの手で行うという発想でまちづくりを展開していきたいと考えます。

例えば、現在、駅前の花壇の管理や青少年広場の清掃など、献身的な活動を行っていただいている方がたくさんおられます。これらの活動をさらに広め、住民の1人1人が、それぞれが無理なく可能な範囲でまちづくり活動に取り組むことができれば、私たちが理想とする、息の長い継続的なまちづくりができると思います。

②まちづくりに愛着が増すような工夫を行う。

まちの整備も単に行政まかせでなく、何らかの形で住民が関わることができれば、香川のまちへの愛着がより一層高まるのではないかと考えます。

例えば、公園や河川沿いの樹木に対して「オーナー制」をとり、苗1本1本を住民が購入し、自らの手で植樹を行ったり、散歩道の案内板を住民の手づくりで行うなどの工夫によって、より魅力的なまちになると思います。

③他のまちづくり協議会との交流を継続していく。

今回の検討会では、埼玉県川口市への事例視察を行い、植木の町「安行」や鋳物産業の町「本一」のまちづくり協議会との交流を得ることができました。それぞれに課題を抱えながら、魅力的なまちにするための工夫を行っています。

これらの交流をきっかけとして、継続的に情報交換を行うとともに、さらに交流の輪を広げていくことにより、お互いが刺激を持ちながら、それぞれのまちづくりに生かしていくことができれば良いと考えます。